

愛知大学 3つのポリシー（2026年度以降）

■ 全学部共通

教育研究上の目的
学則第1条（目的） 本大学は、教育基本法及び学校教育法並びに本学の設立趣意書に基づき、高い教養と専門的職能教育を施し、広く国際的視野をもって人類社会の発展に貢献しうる人材を養成することを目的とする。
学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）
愛知大学では、「世界文化と平和への貢献」「国際的教養と視野をもった人材の育成」「地域社会への貢献」を建学の精神とし、学則第1条に定める「教育基本法及び学校教育法並びに本学の設立趣意書に基づき、高い教養と専門的職能教育を施し、広く国際的視野をもって人類社会の発展に貢献しうる人材を養成する」ことを目的としています。 履修規程に定められた科目区分毎の卒業必要単位数及びコース別の履修要件等をすべて満たし、かつ厳格な成績評価を経て総計124単位以上を修得し、以下の資質、能力及び知識を身につけた学生に対し学位を授与します。
（知識・技能） 1. 各学部・学科の専門知識・技能及び情報処理等の汎用的能力を身につけることで、筋道を立てて物事を考え、課題を解決することができる。 2. 幅広い教養、豊かな人間性及び社会的倫理観を身につけている。
（思考力・判断力・表現力） 1. 社会の諸事象について、主体的かつ総合的に判断できる能力を身につけている。 2. 国際的な視野から世界と日本を見つめ、多文化共生をめざす態度とそのためのコミュニケーション能力を身につけている。
（主体性・多様性・協働性） 1. 多様な人々と協力して地域社会に貢献する意欲と能力を身につけている。
教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）
愛知大学では、学位授与方針に掲げる資質、能力及び知識を修得させるために、学部の枠を越えて履修する「共通教養科目」と各学部・学科別に設置された「専門教育科目」からなるカリキュラムを体系的に編成します。教育内容、教育方法、学修成果の評価について以下のように定めます。
（教育内容） 1. 大学教育への導入・適応を促すとともに、大学における学習・研究に必要な基礎的知識や技能、論理的な思考方法、総合的な判断力、グローバル化する社会に求められる実践的な外国語運用能力、さらに ICT 社会に必要な情報処理能力、職業人としてキャリア形成のために必要な力などを養成することを主たる目的として「共通教養科目」を配置する。これらの目的を達成するため、「共通教養科目」は「外国語」「数理・情報」「自然」「社会」「人文」「総合」及び「スポーツ・健康」の7分野に分けて科目を設置する。 2. 各学部・学科が養成をめざす専門分野の科目として「専門教育科目」を配置する。すべての学部で、教育の専門性をより高めるためにコースもしくは専攻を設ける。授業科目の中には、講義科目のほか、各学部・学科の方針に応じて、演習や実習、卒業論文・卒業研究、フィールドワーク等が含まれる。また、いずれの学部でも大学教育への導入・適応を促すため初年次に演習科目を置いて少人数教育を実施する。
（教育方法） 1. アクティブ・ラーニング、PBL（Project Based Learning、課題解決型学習）等の教授法を積極的に取り入れ、知識を伝授する座学にとどまることなく、知識を基盤とした能動的学修を通じて、実践的な教育を目指す。 2. LMS（Learning Management System: オンラインによる学習管理システム）を活用し、学生との双方向的な教育を推進する。 3. 外国語の授業や演習・実習形式の授業における少人数クラスなどをはじめとして、さらに教育効果をより高めるため、授業科目の内容に応じて適切な履修者数を設定する。 4. シラバスにおいて「準備学習・事後学習」を全授業科目で明示することで、学生の授業外での学習を促し、学習時間確保と単位の実質化に努める。 5. 履修モデル、カリキュラムマップを示すことにより、体系的・段階的な学修ができるようにする。
（学修成果の評価） 愛知大学では、本学における学修成果の評価方針（アセスメント・ポリシー）に基づき、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に示す学修目標の達成状況を把握するため、以下の方法により、検証・評価を行います。 1. 大学全体（マクロ）での評価は、学修成果アンケート、卒業後アンケート、就職率、単位取得状況、学位取得率、GPA 分布（年度毎、通算）、留年率等により行う。 2. 教育課程（メソ）での評価は、学修成果アンケート、単位取得状況、学位取得率、GPA 分布（年度毎、通算）、留年率、卒業論文・卒業研究の成果評価割合等により行う。 3. 授業科目（ミクロ）での評価は、シラバス「成績評価の方法と基準」で明示した基準に基づいて、各科目の成績評価分布、授業評価アンケートにより行う。

愛知大学 3つのポリシー（2026年度以降）

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）	
愛知大学では、「世界文化と平和への貢献」「国際的教養と視野をもった人材の育成」「地域社会への貢献」を建学の精神とし、「高い教養と専門的職能教育を施し、広く国際的視野をもって人類社会の発展に貢献しうる人材」の育成を全学の教育目標として掲げ、各学部・学科ごとに教育目標（教育研究上の目的）及び学位授与方針を定めています。本学では、これを達成するために、定められた教育課程に従い学修する資質、能力及び知識を備えた以下のような学生を、各種選抜試験を通じて受け入れます。	
1. 求める学生像	(1) 建学の精神に即した人材として成長が期待できる学生。 (2) 優れた能力や豊かな経験に基づく各学部専門教育への強い興味や関心、勉学意欲を持つ学生。
2. 入学前までに修得すべき能力	(知識・技能) (1) 高等学校において学ぶ各教科の基本的な内容について、幅広く理解していること。 (2) 自身が入学する学部・学科で学ぶ学問に関する書籍等に触れ、基礎的な知識を得ておくこと。
	(思考力・判断力・表現力) (1) 地域や社会で起こっている事柄に幅広く関心を持ち、その原因や解決方法などを自分なりに考える習慣を持つこと。 (2) 自身の考えや意見を他者に分かりやすく伝えることができるような、表現力を養うこと。
	(主体性・多様性・協働性) (1) 取り組むべき課題や解決に必要な諸問題に対して、他者とも協働し、主体的に取り組むことができること。 (2) 自分と異なる意見や考え方について肯定的に捉え、多様な人々と積極的にコミュニケーションが取れること。
3. 選抜方法	(1) 一般選抜 基礎学力をバランス良く備えた入学者を選抜するために、3教科以上課すことを基本とし、その結果を総合判定して合格者を決定する。 (2) 総合型選抜 出願資格に応じた入試区分を設け、出願書類、小論文、面接等により総合判定して合格者を決定する (3) 学校推薦型選抜 調査票（全体の学習成績の状況）、資格点、面接、学科試験により総合判定して合格者を決定する。